

集団移転で全世帯が地区外に移転した津波被災地において、海辺の魅力を活かしながらコミュニティファームを中心とした多世代交流拠点の整備を目指す。

- 東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた仙台市荒浜地区では、災害危険区域の指定で全世帯が地区外に移転し、コミュニティ活動の停滞が課題。また、子育て世代の交流の場・就労の場づくりも必要とされている。
- 本提案は、災害危険区域の集団移転跡地を借用しコミュニティファームを中心としたインクルーシブな多世代交流拠点を整備することを目指し、特に空間計画や運営体制、事業スキームを検討する。

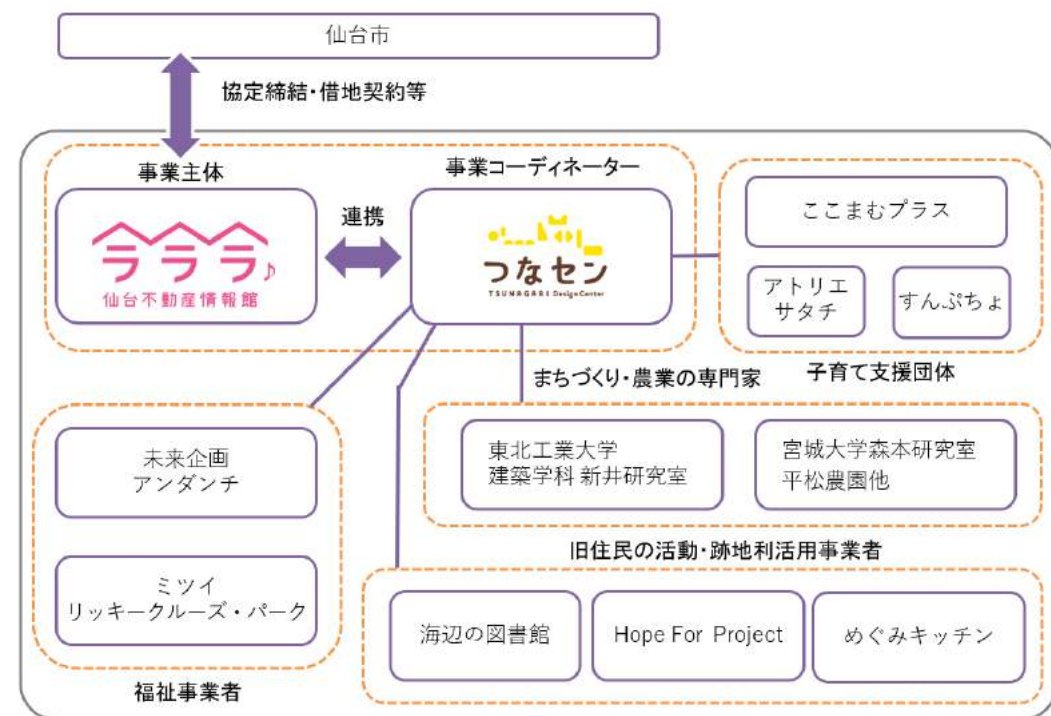
震災前の荒浜地区



震災後の荒浜地区



事業コンソーシアムのイメージ



事業概要

代表提案者	今野不動産株式会社
共同提案者	NPO法人つながりデザインセンター
事業実施場所	宮城県仙台市
事業実施内容	事業コンソーシアムの立ち上げと協議会開催、コミュニティファームを中心としたランドデザインの設計策定等、旧荒浜住民及び地域活動団体とのネットワーク形成、トライアルイベントの開催、事業の情報発信やイベント開催告知等
事業実施期間	令和3年1月～令和3年3月

評価委員会での評価内容

- 本提案は、津波被災地において土地利活用の方針を踏まえつつ地域コミュニティを活性化するための具体的なアクションを追求していく計画であり、他の津波被災地の1つのモデルとなることが期待される。
- 子育て世代に対してサービスを提供するだけでなく、運営側にも関わってもらう仕組みを構築するなど社会的発信の萌芽となりうる要素を含んでいる点は評価できるが、性別による役割分担意識を助長するような表現が見られるため、事業実施の際はこの点に十分な配慮が求められる。